

陶山神社（とうざんじんじゃ）

1600 年代後半、有田の皿山代官（だいかん）（地方官）の命によってこの神社は建てられた。有田皿山宗廟八幡宮（ありたさらやまそうびょうはちまんぐう）として創建されたこの神社には、伝説上の天皇・応神（おうじん）天皇と鍋島直茂（なべしまなおしげ）（1538～1618）が祀られている。直茂（なおしげ）は鍋島家当主であり、1603 年の徳川幕府設立から 4 年後の 1607 年に佐賀藩を支配した。直茂は 1590 年代に朝鮮人陶工を佐賀に連れ帰った大名のひとりであった。1871 年、神社は文字どおり「陶器の山の神社」を意味する陶山（すえやま）神社と名を改めた。現在の愛称である「とうざんじんじゃ」は、「すえやま」という漢字の別の読み方を元に名付けられたものである。

1887 年、地元住民たちが朝鮮人陶工・金ヶ江三兵衛（かながえさんべえ）（1655 年没）の記念碑をこの神社に建てることを提案した。三兵衛は、1600 年初頭に泉山（いずみやま）で磁石を発見したことで知られている。記念碑は、有田焼創成 300 年を記念して 1917 年に建立された。

毎年 5 月 4 日には、1 週間にわたって行われる有田陶器市に合わせて三兵衛の記念式が行われ、人々が記念碑のもとに集まり、「日本磁器の祖」へ感謝を示す。陶山神社のその他の主な祭りには、毎年 10 月 16 日に開かれる有田おくんちがあり、神輿と呼ばれる移動式の神社が、近隣の 8 つの各地区を練り歩く。皿踊りでは、2 枚の磁器の小皿をそれぞれの手に持ちカスタネットのように打ち鳴らす。

境内には、1888 年に建てられた大きな鳥居や、1887 年に赤絵町区によって寄贈された今右衛門（いまえもん）窯製の一對の狛犬など、磁器製の構造物がいくつも見られる。